
現実の僕と、夢の中の自分

BCC

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現実の僕と、夢の中の自分

【コード】

N5049BA

【作者名】

BCC

【あらすじ】

本物の冒険がしたい。

勇者になりたい。

異世界にいきたい。

ぼくは、冒険がしたい。

そんな思いを持ち、何も変わらない平々凡々な高校生活を送るぼくがもうひとつの世界では

日常と非日常が交錯するとき、物語は始まる？

【プロローグ】（前書き）

はじめまして。BCCと申します。

初作品・初投稿となります。

少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

まだまだ拙い文章しか書けぬ若輩者ですが、宜しくお願い致します。

また誤字・脱字・アドバイス・ご感想等、頂ける場合にはお待ちしていますので宜しくお願い致します。

【プロローグ】

別にすごく特別な人生を送ってきたわけではない。

普通に生まれて

普通に育って

普通に学校に行って

普通の家族と過ごして

普通の人生を送っている。

それがつまらないと気付いたのは

いつだっただろうか？

それが普通だと気付いたのは

いつだったのだろうか？

変わらない毎日。

変わらない日常。

だから、望んだ。

マンガのような、ゲームのような主人公に、と。

きつと、一度くらいなら誰もが願う願いだろうか？

だけど、そんな願い叶いはしない。

それが、現実。

なら、どうする？

だから、ぼくは夢を見る。

非日常な日常1

いつも通りの光景が目の前に広がる。

森林。木々からの木漏れ日と爽やかな風。気持が安らぐ。

「ナオツ！なに、ぼっーとして！」

鈴の音が透き通るような声でぼくを怒鳴って、二つに束ねた長い綺麗な金髪がなびく。同い年くらいのもので、ものすごく綺麗な女の子。燃えるような蒼い瞳が印象的で、可憐な というにはあまりにも目つきが凶暴すぎる。というか顔の距離が近い！

「そんなに怒鳴らないでよ、エリ」

慌ててぼくは後ずさる。そんなぼくにさらに追い打ちをかけてくるように、修道服のような服を着た（それにしても、スカートが短い）エリは体ごとぼくに迫ってくる。

「ナオがいつーも、のんきだからでしょ！」

ぼくは改めて、エリの顔をまじまじと見つめる。夜の色がそのまま染み通りそうなほど透きとおった白い肌は、日本人のものではない。こんな綺麗な子、普通じゃ、いない。

「いや、大丈夫だって。ちゃんと分かってるよ。化物退治オクだろ？」

そう言いつつ、前方にいる化物を見る。この世界ではよく見る普通の化物。オークだ。体長は2m強。体重は人間の優に七倍はあるだろう。格好は獣の皮を被っているという感じで、いかにも汚らし

く化物らしい格好だ。手には長さが4mはあるだろうという太い無骨な丸太を持っている。

「わかってるなら、もっとちゃんとして！」

エリがまたもやぼくに怒鳴ってくる。いくら化物との距離があつて、森の中だからといって声を出しすぎだろ！と思うが今は何も言わないでおこう。真剣になればいいんだから。

「…わかった」

ぼくの鋭い声を聞いて、ぼくの目を見て、エリは頬を染めてそっぽを向く。

ほら？簡単なことだ。だって、エリはぼくに惚れてるんだから。それが普通の反応だ。

「エリちゃん、ナオ君、ただいまーっ！」

そんな明るい掛け声と共に、ぼくとエリの後ろから小走りで行ってきたのは束ねていないストレートの綺麗な銀髪に、エリと同じ服、同じ顔。双子のユマ。エリがツンなら、この子はデレという感じ。

「ユマ、しっ—！」

人差し指を立て、ユマを注意するエリ。それに対して、ユマは「わっ！ごめん！」

と慌てふためく。これも、この世界なら普通だ。

「オークは何匹だった？」

ぼくが冷静にユマに問いかけると、ユマは慌てた様子から一転して、

落ち着いた声で状況報告をした。

「全部で四匹。目の前に見える二匹と、その後方、五十mに二匹。手前二匹は見たとおり武器は丸太、主な防具は無し。後方二匹は、武器は五メートルを超える無骨な大剣、防具は無し」

ぼくはその報告を聞いて状況を把握して、指示を出す。

「エリとユマは手前の二匹を。ぼくは奥の二匹を」
「そんなのダメだよ！」

ユマの慌てた声がぼくの言葉を遮る。

「ナオ君が危ないよ！」

ユマはぼくの心配をする。それが普通だ。
エリは不安そうな瞳をしているが、ぼくの目をみて分かってくれる。これも普通だ。

「…大丈夫だよ。いつものことじゃないか」
ユマに向けて笑顔で、諭すように優しい声でそう言った。
「……」

やや納得がいかないようだが、ちゃんと言うことを聞いてくれるように、頷いてくれるユマ。

「それじゃ、…いくよ。カウント。5」

いつも通りぼくがカウントダウンをする。

「4」

いつも通りユマと視線を交わし、軽く笑い合う。

「3

いつも通りエリと視線を交わし、真剣な顔で頷き合う。

「2

背中から、剣を抜く。

「1

足に力を込め、疾走態勢。

「0

ぼくとエリが爆発したように飛び出

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5049ba/>

現実の僕と、夢の中の自分

2012年1月13日23時51分発行